



大阪経済法科大学

# Keiho vol.28

2024年4月30日発行

自分のできるに繋がる、心のスイッチが入る校友会報

おっしや!  
僕も私も頑張れる!!

## CONTENTS

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1 第26回大阪経済法科大学校友会総会案内   | 7 大阪支部設立応援企画3支部対談 |
| 3 会長・学長挨拶               | 9 校友インタビュー        |
| 4 2023年度事業報告・2024年度事業計画 | 15 編集後記・読者アンケート   |
| 5 News                  |                   |

校友会Web  
詳しくは  
こちらから



初参加大歓迎!

名刺100枚持って  
未来に繋がる出会いがある。

# 行くぜ、総会



簡単オススメ!  
QRコード申込



参加申込  
フォーム  
こちら▶

2024年  
5/25(土)

会場 シェラトン都ホテル大阪



## 校友会設立 25 周年記念

第 26 回大阪経済法科大学校友会総会・懇親会

テーマ「共感・共有・共栄」

<日時> 2024年5月25日(土)  
総会 : 14:30 ~ 15:30 (60分)  
講演会 : 15:50 ~ 16:40 (50分)  
懇親会 : 17:00 ~ 19:30 (2時間30分)

<会場> シェラトン都ホテル大阪  
<参加費> 3,000円 同伴者1人につき3,000円 (小学生以下は無料)  
2024年3月卒業生は無料

■講演会講師  
中澤 清一氏 (経済学部 11 期生・株式会社三翠園 代表取締役社長)  
■25周年功労者表彰



演題：関わる事で幸福になる組織づくり  
— 経法大を卒業できたおかげで得た最高の人生 —



講演会講師  
中澤 清一氏

<講師プロフィール>  
1962年 高知市生まれ。  
1971年 小学三年生。父親の会社を継いで社長になることを決意。  
1985年 大学卒業とともに四国管財に入社。「いい会社」にすると決意。  
1997年 社長就任。報告・連絡・相談で、かかわる人が幸せになる経営に奔走。  
2012年 ドリームプランプレゼンテーション世界大会にて「共感大賞」受賞。  
2021年 『かかわる人を幸せにするお掃除会社』執筆出版。  
2022年 株式会社三翠園の代表取締役社長に就任。  
働く人が幸福で人気で予約が取れない旅館に挑戦中。

<中澤氏から校友へのメッセージ>  
素晴らしい先輩や後輩の皆様がいらっしゃる中で大変恐縮ですが、僕のような人間でも大阪経済法科大学に出会ったおかげで有難い人生をおくっておりますので、その恩返しがあればと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。





**大**阪経済法科大学校友会は、1999年6月に設立され、年1回の校友会総会の開催、校友会報の発行、各地域支部の活動支援、種々の在学生支援等校友の交流機会提供を目的とし事業活動に努めてまいりました。この間、多くの校友会員（卒業生、教職員、在学生）のご協力、ご支援により、校友会の基盤が整備され、多様な校友会活動ができるようになってきたと自負しております。

現在、石川県、東京都、愛知県、三重県、岡山県、広島県、香川県、高知県、福岡県、沖縄県の10地域に校友会支部を設け、地域支部会員の親睦・交流を図っております。年1回支部総会を開催するほか、地域支部独自の事業展開がみられるようになってまいりました。

2024年は、校友会設立25周年の節目を迎えるにあたり、地元である大阪にも支部を設立して欲しいとの要望もあり、大阪支部設立に向け準備を進めております。

今後ますます卒業生の輪が広がるよう、また校友会が現役の学生の良き理解者であり、相談相手となり、母校の発展に寄与できるような組織であるように願っております。校友会へのさらなるご支援、ご協力を賜りますよう、校友会役員共々よろしく願い申し上げます。

校友会会長  
**伴井 敬司**  
法学部 1期生



**校**友会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃より、本学教育研究活動にご理解ご協力を賜り、御礼申し上げます。

大阪経済法科大学は、創立者金澤尚淑博士によって1971年に創立され、本年53周年を迎えました。爾来、「経済と法律が社会の両輪であり、この二つの学問を修めることによって無類の人格を形成することができる。」との創立者の信念に従い、万人に開かれた高等教育の実現を目指して、教育研究活動に取り組んでまいりました。そして、現在、経済学部・経営学部・法学部・国際学部の4学部と大学院経済学研究科の1研究科を擁する大学へと発展してまいりました。

これまで社会に送り出した卒業生は、4万6千人を超え、多くの卒業生の方々は社会の中心的役割を果たす一員として、国内外で活躍されております。

今後も本学は、建学の理念に基づき、広く知識を教授し、実践の中から真理を探究する実学の精神を持った人材の育成を行うとともに、教育研究を通じて人権の伸長と国際平和に貢献することを使命に掲げ、一層の充実に取り組んでいく所存です。

校友会会員の皆様方のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

大阪経済法科大学 学長  
**中井 英雄**

## 2023 年度事業報告

### ■2023 年度大阪経済法科大学校友会事業報告

1. 総会の開催（年1回）  
第25回校友会総会  
9月16日（土）シェラトン都ホテル大阪

2. 幹事会・常任幹事会の開催

	幹事会		常任幹事会	
	開催日	開催場所	開催日	開催内容
第1回	5/20	ホテルセイリユウ	5/7	WEB 審議
第2回	7/29	たかつガーデン	7/9	WEB 審議
第3回	9/16	シェラトン都ホテル大阪	1/13	WEB 審議
第4回	10/21	WEB 審議		
第5回	1/27	たかつガーデン		
第6回	3/9	WEB 審議		

3. 地域支援活動  
・第11、12回全国支部長会議  
・大阪支部設立説明会  
・支部総会の開催  
・支部活動援助費の交付

4/14 第17回広島支部総会  
6/17 第19回岡山支部総会  
6/24 第13回三重支部総会  
6/25 第11回福岡支部総会  
7/15 第20回高知支部総会  
7/22 第15回愛知支部総会  
10/14 第21回香川支部総会  
10/21 第18回石川支部総会  
10/21 第14回東京支部総会  
2/17 第20回沖縄支部総会

4. 広報活動の充実  
校友会報第27号の発行（8月）

5. 在学生支援  
経法祭にて在学生支援品の配布、卒業記念品

※2023年度決算、2024年度予算案につきましては5月末日までに大学WEBサイト校友会ページに掲載します。

### ■2024 年度校友会活動方針

大阪経済法科大学校友会は、1999年に設立され、2024年には25周年の節目の年を迎えます。校友会は、校友皆さんのための組織です。積極的に校友会活動に参加し、活躍して下さる方を求めています。新たなスタートとして、近畿地方で初めて大阪支部が設立されます。是非一度校友会総会にお越しください。校友の輪が広がることを願っております。

## 2024 年度事業計画

### ■2024 年度大阪経済法科大学校友会事業計画

1. 総会の開催（年1回）  
第26回校友会総会  
5月25日（土）シェラトン都ホテル大阪

2. 幹事会・常任幹事会の開催

	幹事会		常任幹事会
	開催日	開催場所	
第1回	5月	シェラトン都ホテル大阪	4月
第2回	7月		7月
第3回	9月		8月
第4回	12月		12月
第5回	3月		2月

3. 地域支部活動  
・大阪支部設立  
・全国支部長会議  
・支部総会の開催  
・支部活動援助費の交付

4. 広報活動の充実  
校友会報第28号の発行（4月）

5. 在学生支援  
経法祭参加企画の実施、卒業記念品・卒業祝賀企画の実施

校友会会長 伴井 敬司





## 総会



## Message

総会、盛り上げ隊長の富山です！  
皆さまの心のスイッチがオンになるように総会を盛り上げていきます！

大阪経済法科大学校友会  
常任幹事・広報チーム 富山 源太郎（経済学部 32 期生）



**長** いコロナ禍が明けて、昨年9月16日（土）シェラトン都ホテル大阪でやっと対面形式で開催できた「大阪経済法科大学校友会総会・懇親会」。初めて参加して下さった校友もおり、ステージ企画ではみんなで一緒にダンスをするなど、大変な盛り上がりとなりました。全国から多くの校友にご参加いただき、本当にありがとうございました。

今年も対面形式で校友会総会・懇親会を開催できる運びとなりました。例年、秋に開催していた校友会総会・懇親会ですが、より多くの校友に参加していただきたいという思いから今回は春に開催することとなりました。

今年のテーマは「共感、共有、共栄」です。「大阪経済法科大学で良かった」を皆様と共に感じられるように、社会で活躍するOBによる講演会、校友会の発展に尽力して下さった先輩方のご紹介など様々な企画をご用意しております。

また、今回のコンセプトメッセージ「名刺100枚持って未来に繋がる出会いがある。」を体感していただけるような取組みも準備しておりますので、当日はたくさんの名刺をご持参いただき、ひとつでも多くの「未来に繋がる出会い」が生まれることを願っております。当日は大切なご家族やご友人と一緒に過ごしていただき、1人でも多くの校友の皆様とお会いできることが楽しみです！

**第** 52回経法祭が11月11日（土）、花岡キャンパスで開催されました。当日はたくさんの在学学生、卒業生、地域の方々にご来場いただきました。学生たちによる模擬店が出店され、校友会からも高知支部から新米の販売、みかん詰め放題、石川支部から三社柿のあんぼ柿、福岡支部から型抜き模擬店を出店しました。

また在学学生支援企画として、WEBアンケートに回答いただいた方に「QUOカード1000円」を先着プレゼントするという企画も行いました。在学学生の皆様に好評で、配布まもなく終了となりました。

経法祭終了後は近鉄八尾駅前懇親会が盛大に開催され、卒業生同士で親睦が深められました。校友会は例年、在学学生に向けた校友会のPRと経法祭を機会に母校を訪れる校友に憩いの場を提供するために、積極的に経法祭に参加しています。正門を入ってすぐ右手にあるブルーのテントが目印です。お気軽にお立ち寄りください。

2024年度は11月9日（土）に開催予定としておりますので、詳細については校友会ホームページ（10月中旬更新予定）をご覧ください。校友会は校友が懐かしいキャンパスに集い、交流を深める場です。家族や友人を連れて母校に来てください。

## Message

経法祭、盛り上げ隊長の安田です！  
当日は、たくさんの皆さまとお会いできる事を楽しみにしています。

大阪経済法科大学校友会  
常任幹事・広報チーム 安田 貴則（法学部 29 期生）



## 経法祭



## 合格者速報

### 公認会計士試験 2名合格！

11月17日（金）、令和5年公認会計士試験の合格発表があり、2名見事合格されました。

- ▶橋本 陸人さん（経営学部3年生）
- ▶畑中 康平さん（法学卒業生）

## クラブ入賞

### 全日本学生テコンドー選手権大会

9月10日（日）、第17回全日本学生テコンドー選手権大会が、山梨県にある小瀬スポーツ公園武道館で開催され、見事初優勝を果たしました。

- 本学体育会テコンドー部所属
- ▶キョルギ種目 男子 -58 kg級  
浅田 将揮選手（経営学部1年生）
- ▶キョルギ種目 女子 -57 kg級  
新川 愛美選手（経営学部1年生）

## 卒業式

### 卒業式・学位記授与式

3月18日（月）、花岡キャンパス総合体育館「尚淑館」に於いて卒業式・学位記授与式が執り行われ、校友会から伴井会長、阪本副会長、耕田副会長、山下副会長、安田常任幹事5名の役員が出席しました。



## 支部総会実施報告

### 地域支部独自の事業展開をしています！



4月14日（金）  
広島支部総会



6月24日（土）  
三重支部総会



6月25日（日）  
福岡支部総会



7月15日（土）  
高知支部総会



10月14日（土）  
香川支部総会



10月21日（土）  
東京支部総会



10月21日（土）  
石川支部総会



12月16日（土）  
愛知三重忘年会



2月17日（土）  
沖縄支部総会



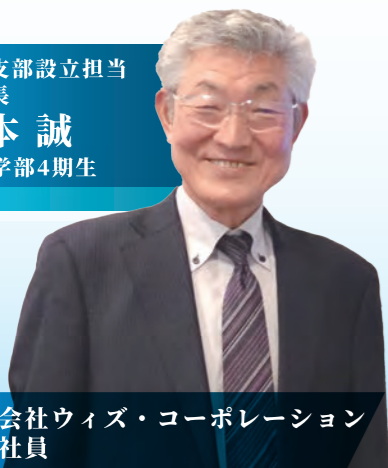
# Keiho 特別企画 大阪支部設立応援

— 大阪・岡山・三重支部対談 —

## 支部活動のリアルな課題とは？

皆が経法大の卒業生という糸で繋がっている。  
それを活かして、繋がりの輪と心を開いて行って欲しい。

大阪支部設立担当  
副会長  
**阪本 誠**  
経済学部4期生



岡山支部 顧問  
幹事  
**緒方 智**  
法学部6期生



三重支部 支部長  
常任幹事  
**濱口 元洋**  
経済学部7期生



司会：常任幹事・広報チーム 富山 源太郎

### 校友会に入ったきっかけと支部活動

司会：校友会に入られた経緯と支部活動について教えてください。

阪本：僕は学生課の太田課長からのお誘いと、同期の山田さん、肥後さんからの推薦がきっかけです。

緒方：僕は準備委員会から葉書を頂いたことがきっかけです。支部活動としては、清掃のボランティアを5年くらいやっています。他にも、OB弁護士による無料法律相談会や、大学主催の父母会を岡上で開催した際のお手伝いやクラブ活動の応援もしていました。

濱口：常任幹事であった北垣さんに誘われて校友会に入り、副支部長になりました。合計11人で世代は20～70代に渡ります。主な活動は年二回の支部会、総会、経法祭での出店、愛知と三重の合同忘年会、名古屋での合同支部総会があります。支部総会は偏りがでないよう、各地域で開催するようにしています。将来的には愛知・三重・岐阜・静岡の東海ブロックとして活動をしていきたいですね。

司会：支部活動で楽しいことや苦労したこと等があれば教えてください。

緒方：異なる世代や職業の校友たちとお酒を飲んだりすることが楽しいですね。また経法大は校歌がカラオケに入っているのが皆で歌っています。一方で、組織拡大が最大の課題だと感じています。校友会は非営利団体ですので、みんなが本職を持っています。その中で、インセンティブになるようなものがないと人は集まらないと感じています。

濱口：僕も、色々な世代や職業の人と交流できることが何よりの楽しさだと思います。苦労していることで言うと、会場やホテルの手配や事務作業といった支部総会の準備ですね。

司会：阪本さんは本部の役員として各支部との橋渡しのような役割も兼ねていると思いますが、他の支部と関わる中で意識していること等ありますか？

阪本：どの支部でも必ず伝えていることは、支部の活性化が校友会の繁栄に繋がるということです。同じ大学の卒業生という繋がりの中で、先輩と後輩が分け隔てなく話ができる関係性を築いてほしいですね。結ぶ・絆・手紙などのように、人間関係を繋ぐ漢字には必ず糸偏がつきます。皆が経法大の卒業生という糸で繋がっています。それを活かして心を開いて行って欲しいですね。

### 課題とその改善策

司会：支部活動をする中で、どのような課題があるとお考えですか？

緒方：やはり、新しい人が増えないことです。会報誌に案内を挟むとか、イベントの時に名前を書いてもらうとか何か取り組みをしていかないと、一方通行では増えようがないですね。

濱口：毎年卒業生は1000人くらいですかね？担当者の名前を書いて、近隣の支部に声掛けをしやすくなるような案内を何かできたらいいですね。

司会：本部としては課題をどのようにお考えですか？

阪本：紙媒体での発信は、今後経費が高くなるのが予想されるので、ホームページを立ち上げ、そこを窓口にして各支部のFacebookにリンクさせる等、今の時代にあった方法を考えていきたいですね。総会の参加者も、もっと増やしたいところです。

### 2024年度大阪支部設立に向けて

司会：大阪支部設立に向けて取り組まれている想いや今後の展望を教えてください。また、三重と岡山から何かアドバイスはありますか？

阪本：大阪支部という名称ではありますが、大阪在住でないと支部会員になれないという訳ではありません。近畿エリアにお住まいであれば、支部に入りたい方は誰でも大歓迎です。名称は大阪支部ですが、人数が増えれば奈良支部・兵庫支部という感じで、独立させていきたいと考えています。

緒方：葉書などの案内等に加えて、ホームページやSNSなどを使って情報発信してみるのも良いかもしれません。

濱口：大阪は主幹となる支部になると思いますから、発足した時に他の支部と比べて人数が少ないというような事は避けたいですね。

司会：大阪は経法大にとって本拠地ですからね。

緒方：そうですね。初めは準備委員会にしても、食事をするので来ませんかというくらいの、柔らかい感じの方がいいかもしれません。

濱口：意見交換会を開いて、そこで役員を決めてから進めた方がやりやすいかもしれませんね。三重支部の立ち上げも1年くらいはかかりました。

司会：大阪支部に対して応援メッセージをお願いします。

濱口：大阪支部は重要な立ち位置になってくると思います。現在の校友会本部役員全39名のうち、地方支部が15名という状況ですので、多様性のある器の大きな組織を作りたいと思います。

緒方：全国から校友が集まるような、賑やかな関西らしい支部を作りたいですね。

阪本：説明会もFacebookで宣伝していますが、反応が限られている状況です。今期の初めから大阪支部の話はでていましたので、現段階で11名ほど立候補いただき、支部長の候補も決定しています。このメンバーを基礎にして立ち上げて、メンバーの人脈から探してもらう等、色々な方にご協力いただきながら準備を進めていければと思っています。

濱口：11月は経法祭、10月は各支部総会なので、今年は大阪で全国支部長会を開催すれば、各支部長も出席するので良い顔合わせの機会になるかもしれませんね。

司会：大阪で全国支部長会を開催して応援しましょうということですね。

濱口：昼間に全国支部長会をして、華やかな場を有効活用したらいいのではと思います。大阪支部長の人も他の支部長と交流を図れるのではないかと。

司会：最後に何か伝えたいことはありますか？

阪本：経法の学生であったことを忘れていない人はいないと思います。校友会の事業の中で同窓会をしてもらったり、サークルのメンバーと集まってもらったり等、校友会・支部・サークルの枠組みを利用して輪を広げてほしいですね。



本拠地である大阪に相応しい、賑やかで勢いのある支部を作ります。

大阪に集まれ!!  
みなさんの  
声・参加を  
待っています!!

大阪





縁を繋ぐ営業力で  
健康と幸せを届けたい！

# INTERVIEW

株式会社日本トリム  
HS 事業部次長

## 島ノ江 真光さん

法学部 27 期生  
大阪府立柴島高等学校出身

自分の置かれた環境を受け入れ、でも、夢を諦めずチャンス待ち掴んだ島ノ江真光さん。大学時代はテニスに没頭。社会人になってからは何度も挫折を味わいながらも尊敬できる上司と有り難いお客様に恵まれ管理職に。人と人との出会い御縁の尊さを語っていただきました。

インタビュアー：副会長 山下 浩希

### テニスに熱中した大学時代

山下：ご出身は佐世保で、高校は大阪なんですね。いつから大阪に？

島ノ江：中学2年の時に、家族で大阪に来ました。経済的な理由で、高校を卒業してから1年間働きながら受験勉強をして経法大に入学しました。

山下：テニスはいつから始めたのですか？

島ノ江：中学からソフトテニスをやっていました。高校のテニス部の顧問が厳しくて、それをきっかけに勝つテニスをやりたくなりました。すごく好きな先輩がいて、その人の影響を受けて、大学に入ってもテニスがしたいと思っていたのですが、当時の担任の助言もあって母を楽にしたいと思い、大学には行かず働くことにしました。その後やはり大学に行きたいと思い、1年目の学費と入学金は自分で払うから、それ以降の学費は出してほしいと父に話したところ分かってくれたので、経法大を受験し合格しました。

山下：大学時代はテニスサークルに打ち込まれていたようですが、経法大のテニス部は当時有名だったのですか？

島ノ江：僕らの時は結構良かったです。最終的に3部までいけました。勉強はあまりしませんでした、一生の友人と先輩に会うことができました。

### 日本トリムへ就職

山下：卒業後は日本トリムという整水器の会社に入社されたんですね？

島ノ江：そうです。体育会系の会社と聞き、自分に合っていると思い面接を受けました。後から聞いた話では、試験はだめだったようですが、面接の印象が良かったようです。当社が上場のタイミングだったこともあり、新卒4期生として運よく入社できました。今年で23年目になります。29歳の時には京都の営業所長に抜擢されました。新卒で所長になったのは自分が第1号でした。

山下：管理職は販売力だけでなくチームを育てる力が必要なので、島ノ江さんにもその素養があったのでしょうか。

島ノ江：当社は若手にも積極的に経験を積ませようとする会社なので、チャンスを頂いたのだと思いますが、部下がほぼ年上だったこともあり、当時は天狗になってしまいました。結果的に、京都時代は失敗だったと思っています。

山下：数字を上げられなかったということですか？

島ノ江：その通りです。恰好をつけて上っ面で仕事をしていたので、3年程所長をしましたが本社に戻されました。販売力も落ちてボロボロだった時、今の上司と巡り合いました。

それまでは、どちらかというと漠然と仕事をしていたのですが、その上司と一緒に働き始めてからやるべきことが明確になり、仕事の取り組み方が変わりました。後輩たちにも家族のように接するようになりました。

山下：京都での失敗が、良い肥やしになったのですか。

島ノ江：そうですね。その後札幌支社長に抜擢され、去年の4月から本社に戻りHS(ホームセールス)事業部に配属になりました。

島ノ江：当社の主な事業はDS(ダイレクトセールス)という対企業の営業で、僕もずっとDSを担当していました。HSは個人に対する営業で、家庭に機械を取り付けに行っただけでは売上が伸びないので、展示会への出店や商社との同行営業など、全国を飛び回っています。いずれは事業部長になることを目指しています。

### お客様との出会い・営業の魅力

山下：印象に残っているお客様のエピソードはありますか？

島ノ江：新人の時に機械の取り付けに行ったお客様との出会いが、自分の中で非常に大きいです。その方は二度の大病を乗り越え自伝も書かれているのですが、その中で当社の水と僕のことも書いていただきました。そのお客様から100人くらいお客様をご紹介いただいたんです。今も本当に可愛がっていただいています。

山下：お客様が、製品だけでなく島ノ江さんのことも含めて紹介してあげようという気になるのは、ご自身の人柄のどのような部分だと思いますか？

島ノ江：マメさですかね。お客様と会った後は必ずお礼のメールを送り、アフターフォローの電話も必ずかけます。会社として決まりはないのですが、自分の中では当たり前のようにやっていました。そういう積み重ねが、お客様との信頼関係に繋がったのではないかと思います。あとは、人の良いところを見て学んで、自分のものにするように意識しています。

山下：仕事で部下にアドバイスをする時、大事にしていることはありますか？

島ノ江：できもしないことを言われるのが僕はとても嫌だったので、自分がやったことがないことは絶対に言わないようにしています。ポジティブに、どんな事も一回やってみてから考えることの大切さを伝えています。



山下：営業という仕事の良さは何だと思えますか？

島ノ江：自分の説明を信じて買っていただけることの嬉しさや、法人・個人を問わず、紹介で人脈が広がっていく楽しさですね。また、お客様に鍛えていただけることも営業の醍醐味だと思います。当社の商品を知っていただけたら買ってもらう自信があるので、もっと多くの人に知ってもらいたいですね。

### 経法大を卒業して思うこと、 校友へのメッセージ

山下：経法大を卒業して良かったと思えますか？

島ノ江：僕は良かったと思っています。経法大に入ったからこそ、良い具合にテニスもできましたし、一生の友人ができました。お前だからやると言って仕事に協力してくれた大学時代の仲間もいて、経法大で得た繋がりは仕事でも活かしていると感じます。

山下：この会報を読んだ人に自分も頑張ろうと思って欲しいというのが今回のテーマなのですが、何かメッセージはありますか？

島ノ江：同じ大学という繋がりがありませんから、その繋がりを活かして先輩や後輩から色々な刺激を受けて、自分自身を成長させる機会にして欲しいと思います。校友会総会には僕も1度参加したことがあるのですが、その時は縁を活かしきれませんでした。自分の知識も増えますし、年上の方に教えていただく良い機会にもなると思いますので、これからはどんどん活用していきたいですね。







# INTERVIEW

株式会社ヨコタエンタープライズ総合企画部  
営業開発グループ マネージャー

## 高橋 洋史さん

法学部 27 期生

愛知県立松平高等学校出身

「母校の学生も採用したい」  
名古屋の製造派遣・物流に特化した人材派遣会社で総合企画部のマネージャーとして活躍中の高橋洋史さん。新聞奨学生だった経法大時代を経て、人材を派遣される側から派遣する側になった現在、派遣事業への夢を語っていただきました。

インタビュアー：副会長 山下 浩希

キャリア形成を応援する  
派遣会社を作りたい！

### 新聞奨学金で自ら勝ち取った大学生生活

山下：ご出身は名古屋ですか？

高橋：愛知県豊田市です。高校まで豊田市にいました。

山下：経法大を選んだ経緯を教えてくださいませんか？

高橋：高校3年生の頃から法律に興味があったこともあり、二次募集で経法大を受験し合格しました。新聞奨学生に応募して奨学金を頂き、新聞店の二階に住み込みで朝刊・夕刊を配達しながら学校に通っていました。

山下：新聞配達をしながら学校へ通うのは、大変だったでしょうね。

高橋：1年、2年生の時は体力が無く配達後は学校に行けなかったの、ほとんど単位を取れませんでした。3年、4年生で一念発起して授業の履修計画を立てました。仕事の関係でゼミに出席できなかつたため、教授に事情を話し、論文を2本書くから出席は免除してほしいと直談判しました。ご理解いただき、無事に単位を取得できました。奨学金を頂いていたこともあり、留年するわけにいかないので、綿密に計算して卒業までに単位を取りきりました。忙しい学生生活でしたが、友人との楽しい思い出も沢山できました。その時の状況の中で最大限に楽しむことを信条にしていたので、悔いのないキャンパスライフでしたね。

### 紆余曲折を経て派遣の世界へ

山下：卒業後就職した会社を一度退職して職業訓練校に通われた後、派遣会社に登録をされたのですか？

高橋：はい。日雇い派遣で、引っ越し会社、製菓工場、イベント会場の設営等、思い出せないくらい沢山の仕事をしました。

山下：その後、派遣元の会社で正社員になったのですか？最終的にエリアマネージャーになったとのことですが、どれくらい働かれたんですか？

高橋：3年か4年くらいです。その後同僚に誘われて派遣会社の立ち上げに携わったのですが、色々あって最終的に僕1人が会社に残りました。リーマンショックを迎えて会社を辞めざるを得なくなり、2回目の職業訓練校に通い就職活動をして、2011年に前職の会社に入社しました。そこで、豊田自動車の車両開発の技術者派遣など幅広い仕事を体験しました。その後、親会社に吸収合併されることとなり、豊田支社長になりました。今までの仕事に加え製造派遣も始め、その後12年働きましたが、製造派遣に重きを置く会社の方針に疑問を持ち始め、営業をする中で将来性の無さも感じるようになりました。自分自身、キャリアアップしたいという思いが強くなったことと、会社全体をマネジメントできる人間になりたいという思いから転職を

決意し、今の会社に巡り合いました。

山下：今の会社ではどのようなポジションなのですか？

高橋：総合企画部という部署なのですが、経営企画部の役割も兼ねています。開発設計・生産技術・ITソリューションにもアウトソーシングしているので、横断的に営業しないと機会損失になってしまいますので、営業開発も担当しています。最近では新規営業をやりながら、人事制度の立ち上げリーダーも兼任しています。コンプライアンス・研修・実務・キャリアアップ・育成プロジェクトリーダー・派遣のシステム導入など、会社のハブ的な役割をしています。

### 派遣という仕事のやりがい

山下：高橋さんにとって、仕事のやりがいは何ですか？

高橋：担当者・お客様ときちんと向き合って、人と会社を繋ぐことにやりがいを感じます。100点満点の企業などありませんから、良い面も悪い面も包み隠さず本人に伝えるようにしています。

山下：派遣したもの、上手く企業とマッチングしないケースもあるかと思いますが、派遣社員の方から相談を受けた時、どのようにフォローしているのですか？

高橋：仰る通り、ミスマッチは頻繁にあります。開発現場に人を派遣することが多いのですが、関係者以外入れないため職場見学ができません。言葉だけでイメージしてもらうのは非常に難しいので、面接の時には出来る限りその人に共感することを心掛けています。その人の立場になって考えることが、一番のミスマッチ防止策です。お客様である企業に対しても、“言うべきことは言う”ことを大切にしています。職場で嫌なことがあった時、派遣社員の方が相談できるのは、僕たちしかいません。だからこそ、日々のコミュニケーションを積み重ねて信頼関係を構築することが大切だと思います。

山下：高橋さんの尊敬する人は“人を尊敬する人”ということですが、いい言葉ですね。どうしてこの言葉を選ばれたのですか？

高橋：派遣事業は本当に色々な人に会います。その中で、人を尊敬して、その人のことを表面的でなく人間として見ていかないと、人はついてこないです。ただ遜るのではなく、人間として尊厳を認めることが尊敬するということです。自分自身、人に尊敬されたいから人を尊敬します。それが実践できている人はすごいと思うので、この言葉を選びました。



### 経法大を卒業して思うこと、 校友へのメッセージ

山下：今回の会報は、読んだ人が自分も頑張ろうと思うきっかけになることがテーマなのですが、何かメッセージはありますか？

高橋：今の学生さんに対してですが、世の中にどんな仕事があるか分からない人が大半だと思います。今深刻なのは、大手でも新卒の半年以内の離職率が30%以上ということです。さらに、3か月以内に1度でも辞めたいと思った人は80%以上もいます。いざ入社してみると自分が思い描いていた仕事ができず、ギャップに苦しむためです。ライフワークバランスの問題もあり、ホワイト企業でも新卒はやめていきます。ホワイトすぎて仕事のやりがいがないからです。非常に難しく、1年以内に再就職する人が潜在的に増えているんです。それを見越した中で、必要なトレーニングを提供する派遣会社が今でき始めていて、当社もそれを目指しています。色々な仕事を働きながら学んで、最終的にどこかに所属して自分の目指すキャリアを見つけて欲しいですね。

現状のシステムだと、19歳くらいで自分がやりたいことを見極めるのは無理があると思います。社会人になろうとしている学生さんが、社会の実情を知って、自分に合ったライフワークバランスやワークポジションを作っていくというのが今のトレンドです。大学を卒業した後の選択肢を多く提供することで、キャリア形成を応援できるような派遣会社を作りたいですね。







## 畳、茶道の和文化を 継承し発展させたい！

# INTERVIEW

株式会社内藤畳店  
取締役

## 内藤 敬典さん

経済学部 27 期生

私立崇徳高等学校出身

全国総会や経法祭の校友会テントで毎年お手伝いをしてくださる、広島支部幹事の内藤敬典さん。目立たずして存在感のある内藤さん。本業の畳作りと趣味の茶道という切り離すことの出来ない外国には無い日本固有の文化への秘めた想いを語っていただきました。

インタビュアー：副会長 山下 浩希

### 経法大に入るまで

山下：校友会活動で知り合っただけですが、内藤さんは存在感があっても目立つタイプでないの、まだまだ知らない事だらけです。今日はいろいろ聞かせて下さい。先ず、中学高校と進み経法大に入るまでの事を聞かせて下さい。高校は地元の広島ですか？

内藤：はい。私立崇徳高等学校という中高一貫の男子校です。2,000 人規模のマンモス校で、野球やバレーなどスポーツが強いことで有名です。

山下：勉強や部活動はどうでしたか？

内藤：勉強は困らない程度にやりました。部活は中学で剣道と卓球を、高校では部活に入らず、地元のボクシングジムに通いました。その後何もする気が起きない時期がありましたが、何とか立ち直りました。

山下：プロも所属するようなジムだったそうですね。

内藤：そうです。有名なボクサーが作ったジムの第一期生でした。当時、プロボクサーの鬼塚勝也が好きだったので、プロを目指してやっていたのですが、途中で視力が悪くなってしまって諦めました。

### 経法大での学生生活

山下：経法大ではどのような生活を？

内藤：1年生の時に硬式テニスサークルに入りました。2年生になるまでに辞めてしまいましたが、そのサークルでできた友人とは今でも会っています。

山下：アルバイトはしましたか？

内藤：学校の近くのゲームセンターとビリヤード場で夕方から夜中まで働いていました。そのバイトは4年生まで続けて、貯まったお金で数十万するベルサーチのスーツとコートを買いました。今でも大切に着ています。

### 畳高等職業訓練校と家業への就職

山下：そして卒業後、家業を継ぐため畳高等職業訓練校に入ったのですね。

内藤：そうです。神社仏閣で使われている紋縁のある畳を縫う、特殊な技術等を学ぶことができました。学校には2年通いました。

山下：その後、お父さんの会社である内藤畳店に入られたのですね。

内藤：はい。大正5年に創業して、私で4代目になります。

山下：家業を継ぐ中で、大変なことはありますか？

内藤：畳屋は昔から仕事の量に波があって、月によって仕事が少ないことはあります。お盆やお正月前や、ハウスメーカーの決算期は忙しいですね。広島でも畳の価格競争が激しく、安い状態が長く続いていました。ここ数年で単価を上げていく動きになりました。

山下：内藤さんは安さより質を大切にしていると思いますが、お客様によっては、価格重視の方も多いですか？

内藤：とにかく安いのが良い人もいます。昔からの付き合いがある工務店には、少しずつ価格を上げたりしていますが、結局は良い仕事をするしかありません。

### 茶道を通じて、和文化の良さに 気づく人が増えて欲しい

山下：内藤さんは趣味で茶道をやられていて、Facebookでもよく発信されていますね。茶道の魅力は何ですか？

内藤：茶道を通して、相手のことを考えられるようになるのが面白いですね。自己満足で道具ばかり集めるのではなく、来てくださる人の事を考えて、部屋や路地を整えて準備するのが楽しいんです。“おもてなし”とは人のことを考える事だと思います。

山下：茶道を始めたことも、家業の畳店と関係があるのですか？

内藤：家業を意識してやっているわけではないのですが、茶道がただ楽しくて続けていると、畳にも興味を持つてくださる方が自然に集まったという感じです。

山下：自然体だから上手いくのでしょうかね。

内藤：前面に商品を売り出すやり方があまり得意ではないんです。人が好きなのと、あとは自分が楽しむことを大切にしています。そういう風にしていけば、自然と良いお客さんが集まってきます。アピールしすぎるのではなく、いつか畳に繋がればと思っています。

山下：茶道を通じて和文化を発信することで、結果的に自分のビジネスにも繋がるということですね。

内藤：そうですね、戦後から集合住宅が流行りだして、和室が減りました。最近は日本文化が見直され、畳がまた流行ってきているんです。茶道を通じて日本文化に興味を持ってくれる人が増えたらいいなと思います。



山下：畳は日本独自の文化なのですか？

内藤：そうですね、日本発祥のものです。今アメリカや台湾では和室文化ブームで、和室が増えているらしいです。

山下：靴を脱ぐというのも日本ならではのですね。

内藤：そうですね。中国も土足だったようです。日本には四季があるので、畳は日本の気候に合っているのだと思います。日本だと石造りはカビになりますし、モンゴルは狩猟民族なので毛皮の敷物を作ったり、日本は農耕民族でイ草が豊富にあったこともあり、畳は日本の文化として根付いたのですね。

### 海外の畳人気をサービスに繋げる 校友へのメッセージ

山下：内藤畳店の今後の展望などありましたら教えてください。

内藤：畳店としての展望とは少し違いますが、和室や茶室を持つ人だけでなく、茶道など日本文化に興味を持ってくれる人をもっと増やしたいですね。あとは最近海外でも畳が人気なので、ホームページで色々な種類の畳を紹介して、ご希望のサイズの畳を海外のお客様に送るといったサービスを始めたいと思っています。

山下：会報を読んでいる校友にメッセージをお願いします。

内藤：自分がどこに所属するかより、そこに入った後何をするかが大事だと思います。どのような組織に入ったとしても、必ず良い人と知り合えて自分のためになるということに忘れずに、人との出会いや縁を大切にしたいです。







## 編集後記 私たちの情報発信は、一体感を得られる 双方向型コミュニケーションを目指します。

### 校

友会報「Keiho」vol.28 をお送りしました。今号のテーマは【SWITCH よっしゃ！僕も私もがんばれる！！】。10年位前に、能塚副学長（当時）から「学生が教室で誰一人居眠りをせず身を乗り出して聴く話・・・それは実社会で活躍しているOB・OGの話なんです」と聞きました。普通の授業だと真剣にノートを取りながら学ぶ学生が大半ですが、中には講義に身が入っていない学生が居るのも事実です。ところがOB・OGがやってきて学生時代の思い出や社会に出てからの苦労、その苦労を乗り越えての現在の話をすると全員が真剣に耳を傾け、目を輝かせるというのです。それは何故か？自分と同じ経法大を先に卒業し、活躍している先輩の生の声に嬉しくなると同時に「先輩が出来たら自分にも出来る」「自分も先輩のようになりたい！」と心のやる気SWITCHが入るからです。

これは現役の在学生に限った事ではありません。経法大を卒業し社会人として生きている我々校友も同じです。校友会報『Keiho』を通して母校の発展、学生の成長、校友の活躍を知り、校友の皆様にもSWITCHが入ってくれば幸いです。

「変化こそ成長の証」という言葉があります。世の中、日々刻々と変化し続けています。今の常識が数年後には非常識ということも珍しくありません。変化はチャンスでもあります。「CHANGE(変化)」を「CHANCE(チャンス)」にするにはどうすればいいか？英語のスペルなら【Gジー】を【Cシー】にするだけです。私たちの行動も一緒ではないでしょうか？変化を恐れず自分でムーブメントを起こす位の気概で行動すればチャンスは広がり成長へとチェンジ(進化)します。

広報の在り方、手段も変わっていきます。紙媒体からデジタル媒体への変革期に入っています。この変化に対応するために今後の広報についてアンケートを募集します。QRコードを読み取り忌憚のない御意見をお聞かせください。これからの広報活動の参考にさせていただきます。

それでは5月25日(土)上本町シェラトン都ホテル大阪でお会い出来ます事を楽しみにしています。あっ、名刺100枚お忘れなく！(笑)

会報作成チームリーダー 山下 浩希


所要時間: **たった2分!**

## 読者アンケート

ご協力をお願いします!  
応募は右側のQRコードから▶▶

回答期限: 2024年**6月30日**

読者アンケート  
入力フォーム



**入力簡単**  
✓ 回答欄は  
チェック  
ボックス式!

### 大阪経済法科大学校友会事務局

〒581-8511 大阪府八尾市楽音寺6-10

TEL/FAX 072-941-8268

E-mail kouyuukai@keiho-u.ac.jp

(受付時間) 月・水・金曜日 10時~15時

上記以外はFAX及びメールにて

お問い合わせください。

校友会報掲載内容については、  
校友会事務局までお問合せください。

### 広報部会報 作成チーム

山下 浩希 (法学部 10 期生)  
木皮 真理 (経済学部 21 期生)  
安田 貴則 (法学部 29 期生)  
富山 源太郎 (経済学部 32 期生)  
山崎 亮介 (法学部 33 期生)  
大下 真由子 (つなぐデザイン)